

## 令和7年度第1回東広島市環境先進都市推進会議 議事要録

- 日時：令和7年5月20日（火）10：00～11：00
- 場所：東広島市役所 本館 4階会議室404
- 出席者：《配席表及び委員名簿参照》
- 委員：松村会長、加栗副会長、大本委員、川口委員、水野委員、  
神崎委員、藤原委員、小倉委員、佐々木委員、間所委員
- 事務局：環境先進都市推進課  
水戸課長、西本参事、永久係長、船越主査、  
小田主任、田邊主任主事、豊田主事
- 欠席：二井委員、西田委員

### ■配布資料

- 次第
- 配席図
- 資料1 東広島市次世代学園都市ゾーンのまちづくり
- 資料2 S-TOWNプロジェクト状況報告
- 資料3 令和7年度における環境広報について
- 資料4 環境学習特設サイト（のん太の自然発見パーク！）の作成について

### ■議事概要

#### 1 開会

- 事務局による開会
- 会長によるあいさつ
- 事務局による後藤委員、中村委員の辞職および間所委員の就任の連絡
- 事務局による欠席者の連絡

#### 2 議事

##### (1) 東広島市次世代学園都市ゾーンのまちづくりについて

###### ○事務局

事務局から市政推進監が令和7年3月に作成した「東広島市次世代学園都市ゾーンのまちづくり」の冊子について、概要を説明した。

- ・住民、国や県など行政機関にまちづくりに関心を持っていただく目的で作成。

###### ○委員からの意見

- ① この方向性は、承認され公表されたものか？

⇒市議会総務委員会で説明済みで、市HPでも公表済みである。（事務局）

② 総合計画との関係、位置づけは？

⇒総合計画は、大学と連携しイノベーションを起こそうとする柱と、海から山までの自然環境を活かしたまちづくりの柱とあるが、その前者の位置づけとしている。

(事務局)

③ マイクロンの工場も立地しているが、大量の工業用水を利用していると聞いている。工業用水を再利用する事は検討されているのか？

⇒投資にあたって関係部局が調整を行っており、そのひとつに上下水道の話はあるが、マイクロン社として、現在も一定の再利用をされているが、さらに割合を引き上げる取り組みをされていると聞いている。

(事務局)

④ 中心部のまちづくりの計画も良いが、周辺部の活性化にも関心が持てる提案もしてもらいたい。周辺部の自然環境の維持にもつながるアイデアが欲しい。

⇒この会議は市全体の活性化を議論することが中心ではないので、この場で地域活性化の議論を深掘りする事はできないが、3大学とのタウン&ガウンでの学生との取り組みにより、動きが少しずつ出てきており市としても周辺部の活性化にも当然、継続して取り組んでいく考えである。(事務局)

⑤ 北部3町、安芸津、志和などとにかく人手が少ない。周辺部に中心部から人が来るような事も考えて欲しい。また、広大へのバスではなく、北部3町のバスが減っている問題など、周辺部もあわせて東広島のまちづくりを考えていただきたい。

⇒そう言ったことも含めて、総合計画には広く市全体のまりづくりについて記述しているが、この冊子は中心部のまちづくりの方向性をお示ししたものである。

(事務局)

⑥ 非常に頼もしく立派なまちづくりの方向性であるが、市民がこれを知って何を行動するのか？それを入れて欲しかった。こうした地道な活動にまずは参加するとか、将来的にインバウンドに取り組むとかあれば、明確になったかと思う。

⇒この冊子は、大きなまちづくりの方向性をお示ししたものとなっている。

(事務局)

⑦ 人口が増えている街であることや、ポジティブピースなどメッセージ性が感じられた。また、まだ開発が進んでいく事も感じられた。一方、東広島市はため池が

多く、広大近隣の下見学生街のため池には、希少な生態系が残っており、ため池の宅地化について、地元でも議論があることについて新聞記事になっていたが、こうした資源をどう残すかが今後のまちづくりには重要であると思う。

⇒下見学生街のため池は、学生街整備時に地元との協議により、将来的な宅地化が決定された経緯がある。しかし、新聞にもあったように、現在、広大博物館などの専門家にも協力いただき、あり方の協議が行われている。

使われなくなったため池は、防災上の観点から管理の課題や除草など景観保全の課題もあり、残すには、こうした論点の整理が必要。今後、こうしたことを踏まえて、下見地区、広島大学、東広島市で議論がなされるものと考えている。

## (2) S-TOWNプロジェクトについて

### ○事務局

事務局から令和6年度S-TOWNプロジェクトの進捗報告について、事業概要、進捗状況、現状の課題や今後の方向性等について説明を行った。

### ○委員からの意見

- ① 東広島は森林が多い地域である。個人的な関心としてペレットや薪ストーブなど活用される事を望むが薪の調達に課題があると考え。また、森林づくりパートナー協定の詳細を知りたい。

⇒薪ストーブとペレットストーブの違いであるが、薪ストーブは火力がある一方長い煙突や耐火構造で設置する必要がある。それに対してペレットストーブは、壁からの排気で済むため初期費用が比較的安価。燃料の調達やメンテナンス性も容易である。

また、森林づくりパートナー協定は、企業の社会貢献の一環として実施されている。市が仲介役となって企業と土地所有者と森林組合の3者で、東広島の里山整備を行っている。社員研修の場としても活用されている。（別委員）

- ② J-クレジット制度について、森林吸収の確認はハードルが高いと聞いているが、現状はいかがか。

⇒もともと安芸津町時代からの市有林を利用して人工林33ヘクタール部分のみを対象に、16年間で2,600トンのクレジット創出する計画として認定をいただいております。（事務局）

- ③ SDGs 未来都市東広島推進パートナー制度には、登録が438団体とあるが、登録団体の交流会のようなものはあるのか。他の制度では、交流があることでどんどん意見交換が進み、輪が広がっているものも見られる。

⇒交流会は実施していない。ご案内したセミナーの場での交流は一部あるがそ

れを目的としたものはない。個人から大企業まで、いろいろな規模や深さでの取り組みで登録されている。今後もSDGs 推進の支援を行っていきたい。

(事務局)

- ④ 食品残渣リサイクルについて、23トンのたい肥化とあるが、市内全体の食品残渣の何%程度となるのか推計でも分かるのか。

⇒市内の生ごみの総量は過去のデータであるとおおよそ1万4千トンと推計される。今回の23トンは市内事業者様の協力の元で対応できた量になるが、全体からみるとごく一部と言える。

- ⑤ エネエコセミナーの小学生の参加者が全体の約3割とあるが、参加小学生の保護者の割合などは分かるのか。

⇒そもそも小学生の参加割合を議論する事が正しいかという事がある。小学生でも理解できる一般向けという内容で、年配の方も結構来られている。

(別委員)

⇒小さな頃から環境に関心を持っていただくという趣旨ではあるが、小学生がメインターゲットというわけではないので、書きぶりは検討していきたい。

(事務局)

- ⑥ Sプロジェクトについて、脱炭素先行地域の制度との関係を教えて欲しい。予算額に達したや、予算額縮小といった表現が目に入ったので、国事業との関係を知りたい。

⇒Sプロジェクトは市域全体を対象としたもの、脱炭素先行地域は広島大学周辺の地域を対象としたもので制度上の関係はない。予算縮小については、補助金額の上限額を下げた事が影響している。安価な蓄電器も出てきているための対応であり、補助件数は昨年度程度を見込んでいる。(事務局)

### (3) 令和7年度における環境広報について

#### ○事務局

事務局から令和7年度の環境広報について、目的や令和6年度実績、新規事業等について報告を行った。

#### ○委員からの意見

- ① 今年度はエコパークフェアや広島大学ホームカミングデーへの出展はないのか？

⇒今年度も両イベントに出展を計画している。(事務局)

### (4) 東広島スマートエネルギーHP

環境学習特設サイト（のん太の自然発見パーク！）の作成について

○事務局

事務局から環境学習特設サイト（のん太の自然発見パーク！）の令和6年度実績報告や実証実験の様子について説明を行った。

(5) その他

○事務局

連絡事項として、脱炭素先行地域協議会を開催した事、太陽光設備設置に関する条例制定について報告を行った。

3 閉会

以上